

法人本部サポートセンター

2023年度事業計画

役職・氏名	
法人本部	部長 正田 貴之 部長補佐 正田 文乃
サポートセンター	細谷 素子

*公益事業：社会福祉の増進に資する人材の育成・確保に関する事業（介護福祉士等の養成事業）の所管(ケアスクールプラスを除く)

部署名	法人本部サポートセンター
事業管理	本部長：正田 貴之 本部長補佐：正田 文乃 サポートセンター：細谷 素子

現状と課題	・クラウド型勤怠管理システムの導入・運用により、「労働時間の正確な把握」「適切な勤怠管理」等重要な課題に取り組み、多様化している職員の業務負担軽減や合理化を図りました。働きやすい職場の雰囲気づくり並びに業務の活性化に向けて取り組んでまいります。
-------	--

テーマ・目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 質の高いサービスの提供を推進 ◆ 経営力の強化 ◆ 働きやすい職場づくりの推進
--------	--

具体的計画	
-------	--

<p>1. 質の高いサービスの提供を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラウド型勤怠管理システムの活用を促進し、労働生産性の向上、業務負担の軽減に努めます ・ChatGPT を活用した業務の推進 ・介護現場のニーズ対応をとおした協働作業機会の創出 ・費用対効果（時間）を軸とした各種什器備品の選定 ・ホームページ、各種フライヤーの作成をとおした広報活動の充実 <p>2. 経営力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各事業及び法人全体の収支等の経営状況を把握（月次収支）し、適正な予算管理と経営情報の提供をおこなう ・社会福祉連携推進法人の調査・研究を進める ・施設機能の保全に必要な修繕を順次計画、実施する（補助事業の情報収集） ・スマホ対応された自社ホームページのブラッシュアップ <p>3. 働きやすい職場づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働関連法案をはじめとした法改正に適宜対応する ・働き方改善の推進 <ul style="list-style-type: none"> ①時間外労働時間の目標設定 前年度マイナス 20% ②年次有給休暇取得率 80%の維持 ③ハラスメント研修の実施及び相談窓口の設置 ④多様性を尊重する多文化共生の職場づくり（外国人職員への生活環境整備の支援） ⑤心理的安全性が保たれた職場づくりとメンタルケアの充実（ストレスチェックの共有、心の相談室） ・人材確保のサポート（リクルーメントの充実、外国人向け情報提供、技能実習生・留学生の受入れ） ・技能実習の一定の基準を満たした優良要件適合実習実施者となる 	
--	--

2023 年度 社会福祉法人六高台福祉会

日本語学校及び介護福祉士養成施設奨学金貸与 事業計画

1. 事業の目的

社会福祉法人六高台福祉会（以下「法人」という。）が、法人の理念及び活動方針を理解し、法人の経営する施設での就職を希望する国内在住の者及び私費外国人留学生等の人材を育成することを目的とする。

2. 事業計画

- (1) 奨学生受入れの環境整備（寄付金の費用計上等）を行う
- (2) 日本語学校及び介護福祉士養成施設との連携ネットワークの構築を図る
- (3) 奨学金を希望する学生の募集を行う
- (4) 奨学生の決定、契約を行う（1人）
- (5) 本法人内でのアルバイトの機会提供を調整する
- (6) 外国人のネットワーク支援・相談

3. 行動計画

年 度	項目	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
2 0 2 3 年度	奨学金制度の構築												
	理事会（業務執行報告）							○					○
	連携ネットワーク構築	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	奨学生募集	○										○	○
	候補者面談	○											○
	奨学生決定	○	○										○
	ヒアリング（奨学生面談）				○				○				○
	外国人のネットワーク支援	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

4. 予算

収入（2022 年度寄付金実績） 3,142,000 円 * 2023/3/15 現在
支出（奨学金） 720,000 円 2人×30,000円×12ヶ月

以上

外国人介護職員の雇用計画

2022 年度末

制度	出身国	人数（人）		出身校・管理団体等
EPA 経済連携協定	なし	0	0	
在留資格「介護」	ベトナム	1	2	松山福祉専門 おおたかの森専門学校
	ミャンマー	1		
技能実習生	中国	1	1	協同組合東京共同事務センター-東京支部
特定技能 1 号	なし	0	0	ツクイスタッフ又は 協同組合東京共同事務センター
留学生	ベトナム	3	5	おおたかの森専門学校 AJS 国際学園（日本語）
		2		
その他	ベトナム	1	6	日本人の配偶者等 永住者 永住者
	韓国	1		
	フィリピン	4		
合計	5 カ国	14		

2023 年度

制度	出身国	人数（人）		出身校等
EPA 経済連携協定	なし	0	0	
在留資格「介護」	ベトナム	1	2	松山福祉専門 おおたかの森専門学校
	ミャンマー	1		
技能実習生	中国	1	3	協同組合東京共同事務センター-東京支部
	ミャンマー	2		
特定技能 1 号		0	0	協同組合東京共同事務センター-東京支部
留学生	ベトナム	3	5	おおたかの森専門学校 AJS 国際学園（日本語）
		2		
その他	ベトナム	1	6	日本人の配偶者等 永住者 永住者
	韓国	1		
	フィリピン	4		
合計	5 カ国	16		

施設サービス部

2023 年度事業計画

特別養護老人ホーム松寿園（従来型多床室）

特別養護老人ホーム松寿園アネックス（個室ユニット型）

サービス付き高齢者向け住宅 松寿園エミシア松戸六実

役職・氏名		
施設サービス部	平居 昭範	
特別養護老人ホーム	従来型	ユニット型
	施設長 平居 昭範 副施設長 堀越悦雄・正田文乃	
サービス調整担当課	介護リーダー 平野	介護リーダー 佐藤
各フロアリーダー サブリーダー	1-東 金澤・桑川	3-2 片桐
	1-西 大塚・玉木	3-3 藤原
	2-2 河村・福元	3-4 川尻
	2-3 窪田・川島	—
エミシア松戸六実	ホーム長 阿保 智子（兼特養 CM） 副ホーム長 高橋 寿江	

事業名	特別養護老人ホーム松寿園（アネックス）
事業管理者	施設長 平居 昭範（従来型・ユニット型）
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を継続し、今までの日常生活を取り戻す1年とします。 ・介護にとって大切な総合力（伝達力・気づき力・想像力・判断力・行動力）醸成し、介護の専門性を高めていきます。
テーマ・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護力の強化1（特養松寿園サービスの価値を創造し、高める） ・介護力の強化2（スキルアップと介護における専門性を高める） ・経営力の強化（年間稼働率97.7%の達成）
具 体 的 計 画	
<p>1. 介護力の強化1（特養松寿園としてのサービスの価値を創造し、高める）</p> <p>① 経済的活動や文化的活動が盛んな介護施設</p> <p>例：散歩・外食・施設内ショッピング（ローソン出張販売・パン・衣類等）・おやつ作り・音楽療法・各種サークル活動・読書・飲酒・地域行事への参加など</p> <p>又、各フロアでの季節に応じた行事を企画します</p> <p>* 四季祭り、お花見、花火、スポーツ大会、紅葉見物、忘年会、節分など</p> <p>② レクリエーション・生活機能訓練が盛んな介護施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハ職に加えて、介護職の日常ケアの一環としてレクケアを提供 ・娯楽や余暇として日常生活に当たり前にある時間と内容を検討・提供 ・(一)身体機能の維持・向上(二)認知機能の活性化(三)QOLの向上(四)他者との交流(五)楽しみ <p>③ 人権が護られる介護施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待防止研修の実施 * 身体拘束ゼロの推進 * 虐待リスクアセスメントの実施 ・違和感のあるケア、不適切と考えられるケアから丁寧な対応 ・面会と感染対策のバランスを考慮 ・移動の自由と安全を考慮 ・同性介護の推進 ・薬に頼らない介護施設（ポリファーマシーの対策、薬に頼らないBPSD予防の推進） <p>④ グルメな介護施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事サービス委託業者の変更によるサービスの改善 ・食事メニューの多様化と質の向上、行事食の回数増（月2回） ・お酒が飲める環境（個人負担）・カラオケができる環境（月1回） ・防災食の見直し <p>⑤ 褥瘡の発生予防、重度化を防止に取り組む介護施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・褥瘡マネジメント計画の共有と計画に基づいたケアの実施（3ヶ月に1回） ・栄養スクリーニング結果をもとに、ベッド、車椅子上で体位について適宜検討 ・ゲストの平均BMI値の向上（現状：従来21.1、ユニット20.1） ・車椅子から椅子への試行（7月より検討） 	

- ・訪問歯科医と連携し、ブラッシング方法、昼食時の嚥下体操を継続的に実施
- ⑥ 看取りケアをおこなう介護施設
 - ・ゲスト、ご家族のご要望を基に看取りケア計画書に基づいた支援を実践していきます
 - ・過去の偲びのカンファレンスから得た学びを共有し、ケアの質を高めていきます
- ⑦ ゲストを大切にしている介護施設
 - ・接遇サービス、ゲストの身だしなみに配慮、居室の扉を閉めたプライバシーの保護、ひげや産毛、爪を切るなどの処理、清掃の行き届いた生活エリア等
 - ・車椅子の随時清掃 ・ルームエアコンのクリーニング
 - ・各フロアの設えの工夫（6月～8月）
- ⑧ 柔軟な介護体制を構築する介護施設
 - ・職員のフロア固定化の見直し（4月より順次実施）
 - ・フロア間の協力体制の構築や介護技術の共有・同姓介護の推進
 - ・ケアコンティニュープラン（CCP）の作成と実践
 - ・日課、時間割の柔軟な対応
 - ・業務至上主義から脱却し、ブリコラージュ的（器用に柔軟に作り上げる）ケアの発想へ
- ⑨ 同世代が支える介護施設
 - ・デイ、居宅、包括関連のゲストによる特養ゲストへの間接的支援（施設内における老々介護の仕組みづくり）を通して地域高齢者のやりがいや存在意義のサポートを推進
 - ・「友達の輪食堂」の開設への参画
- ⑩ 災害（感染症対策含む）に強い介護施設
 - ・DWAT（災害派遣福祉チーム）への協力をとおした相互協力体制の構築
 - ・感染症クラスター発生時における高齢者施設等への応援職員の派遣体制の構築
 - ・科学的根拠に基づいた感染症対策の実践

2. 介護力の強化2（スキルアップと介護における専門性を高める）

身体介護技術の基本（①安全を最優先した介護 ②介護されていてもご自分（ゲスト）で動いたと思えるような介護 ③苦痛や恐怖心を抱かせない介護④説明と同意を得る介護⑤身体状況や体調に合わせた介護）を踏まえたケアを提供します

- ① 職員が成長できる介護施設
 - ・フロアリーダーの役割を明確化し、マネジメントに関する研修を実施します（7月）
 - ・ブラッシュアップ研修を継続的に実施します（毎月1回）
 - ・職員とのヒアリングを通して、人事考課による目標の設定と達成度について評価します
 - ・全職員が年間最低1回以上の内部及び外部研修の受講を調整します
 - ・喀痰吸引等の研修参加を計画的に実施します（年間10名程度）
 - ・他事業所交流（デイサービス・訪問介護・短期入所など）の機会をとおして、サービスの多角的な視点を養います
 - ・プリセプターによる新人職員への介護技術指導を通して基礎介護力の向上を図ります（毎月）
 - ・科学的介護情報システム（Life）のデータを活用し、ケアの改善に繋がっていきます（毎月）

- ・ケアの課題抽出から改善計画を作成・実行します（2ヶ月毎 *コンサルタントの支援）
- ・対象者に認知症介護基礎研修の受講をおこないます
- ・ユマニチュード（優しさを伝えるケア技術）に関する研修を実施し、認知症に関するエビデンスに基づいたケアの提供体制作りを行います
- ・B P S Dの予防に対応できる認知症ケアの実践

② NEW テクな介護施設

- ・テクノロジーを積極的に活用、介護負担軽減やケアの効率化から生産性の向上に取り組みます

③ 各種義務化への対応

- ・介護事故に関する「指針の整備」、「事故発生時の報告と改善策の周知」「委員会の設置・開催」「職員研修の実施」「担当者の配置」
- ・感染対策強化「指針の整備」、「委員会の設置」、「研修と訓練」、「専任担当者の配置」
- ・虐待防止の取り組み「指針の整備」、「委員会の設置」、「職員研修の実施」、「専任担当者の配置」
- ・業務継続体制強化(災害や感染発生時の業務継続)、「業務継続計画書(BCP)の作成」「研修と訓練」

④ 働きやすい職場環境の介護施設

- ・各種ハラスメント対策をとおして、安心、快適な環境作りに努めます
ハラスメント研修の実施（年2回） ・ハラスメントに関する啓発、対応（適宜）
- ・時間外労働の削減（R5年度末までに対R4年度比半減）
- ・外国人職員の労働環境の整備と実習における支援
- ・心理的安全性が保たれた職場づくり

3. 経営力の強化（年間稼働率 97.7%他）

① 稼働率向上のための取り組み

- ・入居待機者の定期的な管理を徹底
- ・法人ホームページのスマホ対応を充実
- ・各居宅介護支援事業所へのご案内を実施
- ・判定委員会を終えた実質の待機者を常時確保する（男女複数名）
- ・入退間の期間の7日以内を目途に調整を進める
- ・ゲストの健康状態を把握し、配置医との連携を通して早期受診、治療に努めます
（毎週火曜日、金曜日の回診時での上申、状況に応じて毎週土曜日までには受診を検討）
- ・退院時の受入れを円滑におこなう（入院中、随時治療状況、退院の見通しを確認）
- ・ゲストの転倒、転落に関する事故を早期に検証し、ケアの変更と環境整備の改善を行う
- ・松戸市との連携をとおして、「措置入所」が求められる場合の受入れを実施

② 運営コストを意識したケアサービスの提供

- ・オムツの適切な使用に努める
- ・各種補助事業を活用した固定資産、物品の購入をおこなう
- ・空調のピークカットを意識した管理をおこなう
- ・物品の修繕、点検、管理の内製化をすすめる

事業名	松寿園エミシア松戸六実(サービス付き高齢者向け住宅)
事業管理者	阿保 智子

現状と課題	2022年度は入退居数が各4件例年の半分程であり、年間稼働率も97.5%と安定していた(2023年3月1日現在)。入居待機者についてはネット検索サイトからの申込者の他、地域ケアマネジャーからの紹介もあり安定数を確保できている。コロナ禍で自粛していたサークル活動や外出イベントについて再開していく。公益事業としての収益性の改善をはかる
-------	--

テーマ・目標	<p>◆介護力の強化</p> <p>◆経営力の強化</p>
--------	-------------------------------

具体的計画

1. 介護力の強化

① アクティビティが充実したサ高住

- ・エミシアイベント(映画会、敬老会、クリスマス会、節分、松寿園四季祭、出前、外食ツアー、買い物ツアー、いちご狩り、ぶどう狩り等)
- ・地域イベントの参加支援(お花見、納涼会、文化祭等)
- ・サークル活動(エミシア菜園、園芸、和服を楽しむ着付け教室) 機能訓練集(団体操等)

② ケアの質の向上

- ・介護事故に関する「指針の整備」、「事故発生時の報告と改善策の周知」「委員会の設置・開催」「職員研修の実施」「担当者の配置」
- ・感染対策強化「指針整備」、「委員会設置」、「研修と訓練」、「専任担当者配置」
- ・虐待防止の取り組み「指針の整備」、「委員会設置」、「職員研修実施」、「専任担当者配置」
- ・業務継続体制強化(災害や感染発生時の業務継続)、「業務継続計画書(BCP)の作成」「研修と訓練」
- ・重度化対応可能な体制
エミシア職員のホームヘルプ介護職兼務、往診、透析等可能な外部サービスとの連携

2. 経営力の強化

- ① 稼働率・待機者目標設定(稼働率=平均98%以上、入居待機者=10名以上)
- ② 貸主との家賃見直しの話し合いを継続(2022.11~)
- ③ ホーム長の兼務配置
- ④ 物価高騰によるゲストへの価格転嫁を回避できるようコスト管理をおこなう
- ⑤ 訪問介護、通所介護との連携強化をとおした相乗効果
- ⑥ ブログ更新(1回以上/月)を行い、運営の見える化をおこなう

地域福祉サービス部

2023年度事業計画

ショートステイ松寿園

デイサービスセンター松寿園

認知症対応型デイサービス 松寿園メル・グラン (地域密着型サービス)

松寿園ココからスタジオ (短期集中予防サービス・単一型)

松寿園ホームヘルプサービス六実

居宅介護支援事業所松寿園・松寿園ケアプランセンター六実

松寿園ケアスクールプラス (+)

福祉有償運送サービス

役職・氏名

役職・氏名			
地域福祉サービス部	部長	齋藤 直人	
ショートステイ	管理者	齋藤 直人	リーダー:増田
デイサービス		福島 清美	リーダー:藤澤
メル・グラン		福島 清美	サブリーダー:松井
ココからスタジオ		福島 清美	—
ホームヘルプ		隅田 信江	サ責:奥村・高橋
居宅介護支援事業所 ケアプランセンター		愛木 理恵 猪俣 久美子	—
ケアスクールプラス		齋藤 直人	—
福祉有償運送サービス		齋藤 直人	—

事業名	ショートステイ松寿園
管理責任者	齋藤 直人

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ショートステイの利用を通して、ゲストの表情が良くなった又歩けるようになったと評価いただけるよう、余暇活動や機能訓練を標準サービスとして提供していく必要があります ・利用中の体調不良や急な状態変化等に対応できるよう、事業所の機能強化と併せてケアマネジャーや関係機関と連携体制を構築していく必要があります ・感染症対策の強化をより一層図って参ります ・安定した事業運営が行えるよう、目標稼働率の維持、感染対策、適正な人員体制に努めます
テーマ・目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 介護力の強化1（生活の充実と心身機能の維持・向上） ◆ 介護力の強化2（体調不良や急な状態変化等に対応できるサービス体制を構築） ◆ 経営力の強化（安定した事業運営）

具体的計画

1. 介護力の強化1（生活の充実と心身機能の維持・向上）

- ① レクリエーションが盛んにおこなわれるショートステイ
 - ・リハ職に加えて、介護職の日常ケアの一環としてレクケアを提供
 - ・娯楽や余暇として日常生活に当たり前にある時間と内容を検討・提供
 - ・コロナ禍前同様に外出行事を再開します
 - ・ボランティアをはじめとするさまざまな社会資源と連携をはかります
- ② 身体機能の改善を支援するショートステイ
 - ・介護職員による生活機能訓練の実施及びリハビリ職員による個別機能訓練の実施
 - ・機能訓練士によるグループレクリエーション（毎週火・金曜日）を実施します
 - ・(一)身体機能の維持・向上(二)認知機能の活性化(三)QOLの向上
- ③ ゲストを大切にする介護施設

・ 接客サービス	・ ゲストの身だしなみに配慮
・ 居室の扉を閉めたプライバシーの保護	・ 清掃の行き届いた生活エリア等
・ 車椅子の随時清掃	・ 同性介護の推進
- ④ グルメなショートステイ
 - ・ 食事サービス委託業者の変更によるサービスの改善
 - ・ 食事メニューの多様化と質の向上、行事食の回数増（月2回）
 - ・ お酒が飲める環境（個人負担）・カラオケができる環境
 - ・ 防災食の見直し ・ 夕食サービスの内容改善
- ⑤ 状況に応じた柔軟な対応ができるショートステイ
 - ・ ケアコンティニュープラン（CCP）の作成と実践

- ・日課、時間割の柔軟な対応
- ・業務至上主義から脱却し、プリコラージュ的（器用に柔軟に作り上げる）ケアの発想へ

2. 介護力の強化 2（体調不良や急な状態変化等に対応できるサービス体制を構築）

- ⑥ 関係機関（ケアマネジャー・医療機関等）と連携を強化するショートステイ
- ⑦ 介護事故のリスクが少ないショートステイ
 - ・リスクマネジメント対策をとおして、より安全なサービス体制を構築します
 - ・サービス利用時におけるリスクを予めご家族（ゲスト）、サービス事業者間で共有します
 - ・介護機器、福祉用具を適切に活用することで、ゲスト・職員双方の負担軽減を図ります
- ⑧ 認知症 BPSD の予防対応を実践するショートステイ
 - ・(1)中核症状からの二次障害(2)身体的要因（健康管理）(3)環境的要因（居心地）(4)心理・生活・社会的要因（不安・孤独・ストレス・生活リズム等）(5)「その方らしさ」から、一つひとつの仮説に優先順位を立て、統一したケアを繰り返し行う（認知症ケアプログラム）
 - ・「認知症ケアで大切なこと」の実践を行い、入浴、排泄、食事等の日常生活のケアを大切にすることでゲストの小さな変化にも気づけるようきめ細かなケアを提供することで、行動・心理症状(BPSD) 予防、軽減に努めます
- ⑨ 看取り対応（往診医などの条件による）や感染者の療養対応（状況による）の機能を高める
- ⑩ 介護方法をご助言できるショートステイ
 - ・在宅介護における介護方法（移乗・移動・排泄交換等）についてご家族に説明・助言します
- ⑪ 各種義務化の対応
 - ・介護事故
 - ・感染対策強化
 - ・虐待防止の取組み
 - ・業務継続体制強化

3. 経営力の強化（安定した事業運営）

- ①稼働率 95.0%(19 名様/日)を目標とする
- ②感染症蔓延や災害等による事業縮小・休止を防ぐために、日常における感染対策の強化を図る
 - ・スタンダードプリコーション、感染対策研修、シミュレーションの機会を設けます
 - ・5S 活動の継続
 - ・BCP に基づき災害を想定した訓練の実施
- ③働きやすい職場環境づくりを推進
 - ・職員の声（ヒアリング等）をよく聴き、困っていることや要望に対応
 - ・年次有給休暇の取得平均日数を 16 日(80%)以上/年とする
 - ・時間外労働を半減（対前年度比）できるよう、業務の効率化・標準化・業務の見直しを行う
 - ・留学生が介護職員として活躍できるよう教育環境を整備する
 - ・心理的安全性が保たれた職場づくりを進める

4. その他

- ・法人が進める公益事業及び公益的な取組み(ケアスクール、福祉送迎サービス、認知症カフェ、松寿園パートナー講座等)に参画し、地域包括ケアシステムの役割の一端を果たし、地域連携の拠点としての実践を推進する

事業名	デイサービスセンター松寿園 認知症対応型デイサービス 松寿園メル・グラン
管理責任者	デイサービス：福嶋 清美 メル・グラン：福嶋 清美

現状と課題	コロナ禍の影響を受け通所介護事業所の5割弱が赤字の状況となっており、デイサービスを閉鎖する事業所まで見られます。過当競争となっている中、選ばれるデイサービスである為にデイサービスの機能強化（心身機能の維持向上、認知症ケア、重度化対応等）を進めていきます。
テーマ・目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 介護力の強化（高品質なサービス提供・認知症ケア） ◆ 経営力の強化（稼働率をアップし安定した事業運営） ◆ 働きやすい職場環境づくりを推進します
具 体 的 計 画	
1.介護力の強化（高品質なサービス提供） <ul style="list-style-type: none"> ① ゲストファーストを実践するデイサービス <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストの意見をお伺いし、共にサービスを創造できる関係性を築き、意見収集する場を設ける ・接遇サービスの更なる質の向上(言葉遣い、挨拶、声掛けの統一) ② 身体介護の基本を理解したデイサービス <ul style="list-style-type: none"> ・(1)安全を最優先した介護 (2)介護されていてもご自分（ゲスト）で動いたと思えるような介護 ・(3)苦痛や恐怖心を抱かせない介護 (4)説明と同意を得る介護 ・(5)身体状況や体調に合わせた介護) を踏まえたケアを提供 ③ 科学的介護を実践するデイサービス <ul style="list-style-type: none"> ・科学的介護情報システム（Life）へのデータをケアに活用 ・BI（バーセルインデックス）評価研修をとおして、適切なアウトカム評価をおこなう ・ご利用中の水分摂取量の目標を800ml以上とします ④ レクリエーション・行事が充実したデイサービス <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を講じ自粛していたレク・行事を順次再開する ・積極的に散歩の機会をつくる（歩く事へのアプローチ） ・恒例行事（お花見、お食事お買い物ツアー、納涼祭、敬老会、外出ドライブ等）を継続する ・他者との交流を重視した支援をおこなう ⑤ リハビリが充実したデイサービス <ul style="list-style-type: none"> ・心身機能の維持向上、日常生活動作の維持向上が図れるリハビリメニューを提供 ・(1)身体機能の維持 (2)認知機能の活性化 (3)QOLの向上 に寄与する ・管理栄養士による栄養指導を継続実施（月1回以上） ・適切な機能訓練計画をプランニングするとともに自宅訪問を計画的（3ヶ月1回）におこなう 	

⑥ NEW テクなデイサービス

- ・テクノロジーを積極的に活用、介護負担軽減やケアの効率化から生産性の向上に取り組む
- ・インカムを活用し、円滑な情報の共有をおこなう

2.介護力の強化（認知症ケア）

① 認知症ケアが充実したデイサービス（メル・グラン）

- ・事業所内の認知症介護指導者によるケアの実践を試みる
- ・認知症実践者研修及び、認知症実践リーダー研修への受講を計画的におこなう
- ・認知症 BPSD の予防対応をおこなう
(1)中核症状からの二次障害(2)身体的要因（健康管理）(3)環境的要因（居心地）(4)心理・生活・社会的要因（不安・孤独・ストレス・生活リズム等）(5)「その方らしさ」から、一つひとつの仮説に優先順位を立て、統一したケアを繰り返し行う（認知症ケアプログラム）
- ・認知症に特化したプログラムの充実
社会的役割の創出、リアリティーオリエンテーション、学習療法、音読、パレードシヨクア、アロマテラピー、園芸療法、お料理教室、音楽療法、回想法、ケビクス、アート療法、ボッチャ、シブソロジー、ヨガ等
- ・BPSD+Q 等の評価スケールを使用。BPSD の症状の重症度、負担度を定量的に把握し、認知症ケアを提供した結果（改善度）を評価する(メル・グラン)
- ・精神疾患等に対する適切なケアのあり方について研修をおこなう

② 各種義務化の対応

- ・介護事故に関する「指針の整備」、「事故発生時の報告と改善策の周知」「委員会の設置・開催」「職員研修の実施」「担当者の配置」
- ・感染対策強化「指針整備」、「委員会設置」、「研修と訓練」、「専任担当者配置」
- ・虐待防止の取り組み「指針の整備」、「委員会設置」、「職員研修実施」、「専任担当者配置」
- ・業務継続体制強化(災害や感染発生時の業務継続)、「業務継続計画書(BCP)の作成」「研修と訓練」

3.経営力の強化（安定した事業運営）

① 稼働率の設定

- ・デイサービス稼働率 85.8%(30 人以上/日)、メル・グラン稼働率稼働率 83.3%(10 人以上/日)

② 安全な送迎をするための取組み

- ・効率的で時間に余裕のあるより安全な送迎ルートの見直しをおこなう
- ・安全運転研修（運転適性診断機器）をおこなう ・アルコールチェックを適切に実施する

4.働きやすい職場環境づくりを推進します

- ・心理的安全性が保たれた職場づくりのために、職員との対話（ヒアリング等）をおこなう
- ・各種ハラスメント対策をとおして、安心、快適な環境作りに努める
- ・年次有給休暇の取得平均日数を 16 日(80%)以上/年とする
- ・時間外労働の削減（R5 年度末までに対 R4 年度比半減）
- ・留学生が介護職員として活躍できるよう教育環境を整備する

事業名	松寿園ココからスタジオ 松戸市短期集中予防サービス(短期集中予防サービス・単一型)
事業管理者	福嶋 清美

現状と課題	新型コロナウイルス感染症の拡大により、事業を事実上休止しておりました。 地域の皆様の介護予防、健康づくりの機会を再び提供できるよう必要な準備をおこないます
テーマ・目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 令和5年度上半期の再開を目指し職員体制の構築を行います。 ◆ 利用者確保し安定的な事業運営を目指します。 ◆ 効果的で質の高い介護予防プログラムを提供します
具 体 的 計 画	
<p>1. 令和5年の上半期の事業再開に向けた準備を進めます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再開に向けて職員体制の整備を行います。 ・デイ、メル職員から介護予防指導士を増員します。 ・再開に向けて備品の整備を行います。 <p>2. 利用者確保し安定的な事業運営を目指します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リピーターの皆様に事業の再開のお知らせをします。 ・地域包括支援センターへの事業の再開のお知らせをし、連携を図ります。 ・広報活動を積極的に行い利用者の確保に努めます(チラシ配布・チラシの設置場所の確保) ・稼働率25%を目指します。 <p>3. 効果的で質の高い介護予防プログラムを提供します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用ゲストの事前アセスメントを適切に行い、お一人お一人に有効なプログラムメニューを作成し、目標達成率を上げることで、事業所評価加算の算定を目指します。 ・ご利用ゲストの認知症予防としてプログラム開始前には脳トレを行います。 ・セルフケアが出来るような体操の提供を行います。 ・ココからスタジオ修了後の運動の継続の場として、CoCoからスタジオ(自主的な運動習慣の場の提供)の再開も併せて行います。 	

事業名	松寿園ホームヘルプサービス六実
管理責任者	隅田 信江

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度はサービス提供責任者を増員し契約件数(毎月の請求件数)を拡大することができました。今後は運営基準に準じた受け入れ可能な最大契約数を安定維持出来るように努めます ・職員の介護技術向上(様々な身体介護のニーズに合わせた対応力)を図ります ・効率よく業務を運営し、職員の負担の軽減を図る必要があります ・2024年度に介護保険法改正・介護報酬の改定があるため、関係機関の動向を注視しスムーズに移行できるように準備します → 新設の複合型サービス：通所介護+訪問介護
-------	---

テーマ・目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 介護力の強化（笑顔のあふれた在宅生活が送れるように） ◆ 経営力の強化安定した事業運営を行います
--------	---

具体的計画

1.介護力の強化（笑顔のあふれた在宅生活が送れるように）

- ①研修を定期開催（特養での介護技術研修、シナジーワーク研修、eラーニング）
- ②事故の発生と発生時の適切な対応を推進するために安全対策担当者・高齢者虐待防止担当者を配置します
- ③感染症蔓延や災害等による事業縮小・休止を防ぐために、日常における感染対策の強化を図ります
 - ・スタンダードプリコーション、感染対策研修、シミュレーションの機会を設けます
 - ・サービス継続に向けた取組を強化します（BCPに基づき災害を想定した訓練の実施）
- ④訪問先を固定せず複数の職員で対応できる体制を構築していきます
- ⑤福祉有償運送を活用し居宅ゲストの外出支援をサポートします
- ⑥エミシア、デイサービス、法人本部職員との連携を深め、多機能型サービスを展開します
- ⑦特養職員のヘルプ兼務（ゲスト受診時の保険外サービス・同行）
- ⑧各種義務化の対応
 - ・介護事故
 - ・感染対策強化
 - ・虐待防止の取組み
 - ・業務継続体制強化
- ⑨夏・冬季の訪問時における訪問移動等における労働環境の改善に努めます

2.経営力の強化

- ①必要な人材の確保と法人内異動又は兼務を調整することで事業所力の向上を図ります
- ②法人内募集（記載内容を詳細にして魅力的なパンフレット配布）、外部募集（ハローワーク、折り込み広告掲載、屋外募集掲載）による職員増を図り、ゲストへの複数ヘルパー派遣（援助入ることができるヘルパーを増やす）による、派遣ルートの短縮・簡略化を図ります
- ③年次有給休暇の取得率 80%（年 16 日）を目指し、職員のリフレッシュを図ります

事業名	居宅介護支援事業所松寿園／松寿園ケアプランセンター六実
事業管理者	愛木 理恵 / 猪俣 久美子

現状と課題	<p>法人内事業所として、居宅介護支援事業所をはじめ各事業所との連携が必須です。ゲストの声や課題等を共有し提供可能なことを増やすこと、又課題改善に向け取り組んでいかなければなりません</p> <p>また 2024 年度は介護保険法改正・介護報酬の改定があるため、関係機関の動向を注視しスムーズに移行できるように準備します。</p>
-------	---

テーマ・目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ゲスト・家族が笑顔で過ごせるよう専門性の高いケアマネジメントを実施していきます ◆ 法人内事業所との連携を強化していきます ◆ 安定した事業運営を行います
--------	---

具 体 的 計 画

1.ゲスト・家族が笑顔で過ごせるよう専門性の高いケアマネジメントを実施していきます

- ①相談援助者としての専門性を高めることにより家族を支えゲスト本位の支援を行います
- ②個々のニーズに対応していくために介護保険事業の他、地域にある社会資源を交えたプランを提案し、様々な視点から支援させていただきます
- ③アドバンス・ケア・プランニング(ACP)を行いゲストや家族と信頼関係を築きます
- ④地域包括支援センターが主催する地域ケア会議や地域ネットワークの構築にかかわる会議に積極的に参加します
- ⑤生活支援のサービス（インフォーマル含む）が包括的に提供されるようなプランを作成します
- ⑥病院との連携やターミナルケアマネジメントを行います
- ⑦外部研修について積極的に参加し、情報収集・専門性の向上に努めます
- ⑧ケアプランの自己点検と事業所内点検をおこないます
- ⑨毎週課内会議を行い、ゲストの情報連携・ケアプランの他者点検などを行います
- ⑩介護支援専門員実務研修受入れ事業所としての役割を果たし、共に学ぶ姿勢を確認します
- ⑪他法人と共同で事例検討会・研究会を開催します
- ⑫各種義務化の対応
 - ・ 感染対策強化
 - ・ 虐待防止の取組み
 - ・ 業務継続体制強化

2.法人内事業所との連携を強化していきます

- ①職員間のコミュニケーションを円滑に図り、困難事例に関しては松寿園と六実がチームとして情報の共有をします
- ②法人内事業所と連携・協力体制を再構築し、ゲストの声や課題等を共有し提供可能なことを増やすこと、又課題改善に向け取り組みます
- ③ケアプランデータ連携システムを活用し毎月の請求業務の効率化を図ります

- ④法人が進める公的な取組み(ケアスクール、福祉有償運送、認知症カフェ、松寿園パートナー講座等)に参画し、地域包括ケアシステムの一環の役割として地域連携の拠点機能的な実践を推進します

3.安定した事業運営を行います

- ①事業所の規模拡大（所属 CM の増員）を推進します
- ②居宅介護支援事象所：4 名（加算Ⅱ）、ケアプランセンター：3 名（加算Ⅲ）
- ③2024 年は介護保険法改正があるため情報収集等の事前準備を行います
- ④請求業務のミスがないようチェック、管理体制を強化していきます
- ⑤介護支援専門員資格の有効期限に留意し、更新に必要な研修に参加します
- ⑥サービス継続に向けた取組を強化します（BCP に基づき災害を想定した訓練の実施）
- ⑦魅力的な職場環境を構築し職員の満足度を高めます
- ⑧職員の声（ヒアリング等）をよく聴き、困っていることや要望に対応します
- ⑨年次有給休暇の取得平均日数を 16 日(80%)以上/年を目指します

事業名	松寿園ケアスクールプラス(+)
事業管理者	齋藤 直人

現状と課題	施設系介護従事者の確保が喫緊の課題となっている中、従前の求人手段を駆使した採用活動のみでは人材の確保が困難な状況となっています。 無資格・未経験者の求職者が一定数存在することから、法人内で採用から育成までの一連の研修体系を構築することで、求職者の掘り起こしの余地が生まれる。
-------	--

テーマ・目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 介護職員初任者研修を1回実施する（5名以上+職員） ◆ 当事業の取組を地域の皆様に幅広く周知する ◆ 研修講師を適切に実施、指導できる者を育成する（法人内）
--------	--

事業概要及び具体的計画

事業概要

- ・ケアスクールとは（目的）
 - ・介護に関わる者が介護を行う上で最低限の知識・技術とそれを実践する際の考え方のプロセスを身につけ、基本的な介護業務を行うことができるようになる
 - ・職員確保における具体的方策となり得る
 - ・無資格の入職済み職員が受講することで、ケアの再確認ができ、サービスの質の底上げを図れる
- ・対象者
 - ・在宅・施設を問わず介護の仕事に従事しようとする者
 - ・既に当会に入職済みの職員
- ・研修科目及び研修時間

1 職務の理解	6時間
2 介護における専断の保持・自立支援	9時間
3 介護の基本	6時間
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9時間
5 介護におけるコミュニケーション技術	6時間
6 老化の理解	6時間
7 認知症の理解	6時間
8 障害の理解	3時間
9 こころとからだのしくみと生活支援技術	67時間
10 介護実習	8時間
11 振り返り	4時間
合計	130時間

- ・スケジュール（案）
 - 第1回（年度初回）開校 2023年11月1日予定
 - ※2022年度開催分：2023年6月14日に修了予定

事業名	松寿園福祉送迎サービス (福祉有償運送)
事業管理者	齋藤 直人

現状と課題	要介護高齢者を対象に、通院、ショッピング、お墓参り、郵便局・銀行用事、自宅整理(エミシアゲスト)等の他、道の駅、我孫子市鳥の博物館、市民センターでの観劇などのレジャーの希望もあった。今後もゲストのニーズに合わせた送迎サービスを実施する。
-------	--

テーマ・目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 当会訪問介護事業所ご利用ゲストを中心に福祉有償運送の機会を提供する ◆ 松戸市グリーンスローモビリティとの協同した取り組みを行う ◆ 登録者数 50 名を目標とする
--------	--

具体的計画

1. 体制の強化

- ・ドライバーの増員をはかる（福祉有償運送運転者講習）
- ・利用状況により登録車両を現在の 4 台から増車する場合には安全運転管理者を配置
- ・配車ミスがないよう、予約受入れの見直しをはかる
- ・車両管理の徹底（車検、保険、車両安全点検等）
- ・松戸市グリーンスローモビリティ運転免許講習受講し、実証調査に協力する

2. 送迎サービスの周知

- ・当会各事業所と連携し、訪問介護事業所の新規契約の付加価値サービスとしての相乗効果を高める
- ・必要に応じて、松寿園特養、ショートステイゲストの外出支援
- ・柏市、鎌ヶ谷市の地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、病院等への周知
- ・HP、ブログの定期更新

3. 職員研修

- ・事故防止に関する研修をおこなう
 - 事故発生時を想定したシミュレーション研修
 - 警視庁、県警安全運転動画研修
 - 介護技術研修
 - 接遇面の向上に関する研修
 - その他各種研修会・講習会に参加
- ・法令順守（改正道路交通法）運転前後のアルコールチェック

地域包括支援センター一部

2023年度事業計画

松戸市 六実六高台地域包括支援センター

松戸市 明第1地域包括支援センター

役職・氏名	
地域包括支援センター部	部長 小山 日愛
松戸市 六実六高台地域包括支援センター	センター長 荒井 愛子 介護予防支援事業所 田部 亜希子
松戸市 明第1地域包括支援センター	センター長 岩崎 徹 副センター長 永田 恭子 介護予防支援事業所 滝口 朋子

事業名	松戸市六実六高台地域包括支援センター・介護予防支援事業所 (高齢者いきいき安心センター)
事業管理者	センター長 荒井愛子 介護予防支援事業所 管理者 田部亜希子
担当地域	高柳・高柳新田・六実1～7丁目・六高台西・六高台1～9丁目

現状と課題	<p>ここ数年の新型コロナウイルス感染症禍で地域の通いの場も縮小し、在宅で過ごすことが多くなった地域の高齢者の活動量は低下し、フレイル状態から、介護申請する高齢者も多く見受けられるようになりました。新規事業として、多機能コーディネーターの業務委託を受けることとなり、地域共生の視点を踏まえ、ますます、地域資源の発掘・育成の支援が求められます。地域からの相談として、高齢者虐待通報は増加傾向であり、経済困窮、ヤングケアラー、医療等多問題にわたり、ますます、地域や関係機関とのつながりを更に強化し、六実六高台地域における地域包括ケアシステムをより充実させていくための取り組みを進める必要があります。</p>
テーマ・目標	<p>◆地域包括支援センター運營業務委託契約内容の確実な実施 ◆適正な介護予防ケアマネジメント・指定介護予防支援の継続 ◆職員が働きやすい職場環境づくり</p>
具 体 的 計 画	
<p>1. 運營業務委託契約内容を理解したうえで、確実に実施できるよう努めます</p> <p>①職員一人ひとりが地域包括支援センター運營業務委託の内容を十分理解し、業務にあたります。</p> <p>②多機能コーディネーターを中心に地域団体や関係機関との連携を深め、地域資源の発掘・育成を支援します。</p> <p>③委託契約内容を確実に実施するため、職員の専門性の研鑽を継続していきます。</p> <p>④担当圏域の介護支援専門員のニーズに基づいた連携を推進します。</p> <p>⑤地域サポート医との連携を強化します。</p> <p>2. 適正な介護予防ケアマネジメント・介護予防支援により、介護予防を推進します</p> <p>①事業対象者・要支援者の自立支援に向け法令・通知等を遵守し、多様なサービス、地域資源の活用をしながら、適正なケアマネジメントに努めます。</p> <p>②業務委託時にも適正にケアマネジメントが行われるよう、情報共有・連携をはかります。</p> <p>3. 職員が働きやすい職場環境をつくります</p> <p>①職員間のコミュニケーションを深め、互いに協力しあえる職場にしていきます。</p> <p>②業務の平準化を意識し、効率的な業務分担に努めます。</p> <p>③全職員が有給休暇を計画的に取得できる体制づくりを目指します。</p> <p>4. その他</p> <p>六実六高台高齢者支援相談員会事務局の担当職員や相談員との円滑な連携に努めます。</p>	

事業名	松戸市明第1地域包括支援センター・介護予防支援事業所 (高齢者いきいき安心センター)
事業管理者	センター長 岩崎 徹 副センター長 永田 恭子 介護予防支援事業所 管理者 滝口 朋子
担当地域	根本・吉井町・小根本・緑ヶ丘1～2丁目・松戸新田・仲井町1～3丁目・稔台・稔台1～8丁目・岩瀬・野菊野・胡録台

現状と課題	昨今の新型コロナウイルス感染症拡大を受けた外出自粛・在宅生活が続いた中、高齢者の活動量は著しく低下しています。フレイル状態に陥る高齢者も見受けられるようになり、制限緩和に向けた動きの中、フレイル予防、閉じこもり防止の取り組みが求められています。高齢者虐待通報は、増加傾向であり、コロナ禍で介護者の自宅で生活する時間が増えたこと等で、介護負担が大きくなったことも要因とみられます。虐待の早期発見、対応、介護者の支援の必要があります。今年度より新規事業として、多機能コーディネーター業務委託を受けることとなり、センターが果たすべき役割が増え、センター全体として業務に取り組んでいく必要性があります。
テーマ・目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆多機能コーディネーターの配置により地域づくりの推進 ◆フレイル予防や閉じこもり防止の取り組み ◆高齢者虐待の周知活動、対応の取り組み強化 ◆チームアプローチでの取り組み
具 体 的 計 画	
<p>1.多機能コーディネーターの配置による地域づくりを推進していきます。)</p> <p>①生活支援コーディネーター・就労的活動支援コーディネーター・認知症地域支援推進員の3つの機能を持った人員を配置し、高齢者がいつまでも住み慣れた地域で暮らし続けられるようサービス提供体制の充実や社会参加を促進できる地域づくりを推進します。</p> <p>2.フレイル予防や閉じこもり防止の取り組みを行っていきます。</p> <p>①フレイル予防、閉じこもり防止に向けて、会場参加型を中心にしながら、オンラインも活用し、介護予防教室等を開催することにより、高齢者の活動の場を提供いたします。</p> <p>②コロナ禍により中止していたサロン等の集まる場の再開、及び新規立ち上げの支援を行います。</p> <p>3. 高齢者虐待周知活動、早期発見、早期対応、養護者の支援を行います。</p> <p>①地域住民やケアマネジャー等の関係機関に対して、高齢者虐待の周知活動を行い、早期発見に努めます。また、虐待の要因分析を行い、関係機関と連携し、早期の事実確認を行い、早期終結を目指します。</p> <p>②介護者の集い開催等により、介護者の悩みを話し合い、相談、情報交換、交流できる場を提供</p> <p>4.働きやすい職場環境づくりを推進していきます。</p> <p>①職員の役割分担を明確にし、それぞれの職種を活かし、チームアプローチで取り組むことにより、職員同士が助け合って業務を行っていく体制を構築していきます。</p> <p>②残業時間の削減（対前年比半減）</p>	